

## 4 想定される事業手法と整備費概算

想定される事業手法について、定性評価及び定量評価で総合評価を行いました。定性評価においてはDBOに優位性があり、次いでPFI-BTOに優位性があること、また、定量評価においてはPFI-BTOでは約3.2%、DBOでは約4.5%のVFM発現が見込まれることから、本事業においてはDBOによる実施が最も適していると考えられます。

今後は、官民連携（DBO又はPFI-BTO）による事業実施に向けた要求水準書及び募集要項の準備を進めながら、資金調達などの課題解決を図ります。設計・発注の過程においても機能を維持しながら整備費を低減するよう検討を進めます。

	従来方式	PFI-BTO方式	DBO方式
性能/仕様	仕様発注	性能発注	
発注範囲	分離発注	一括発注	
契約期間	発注毎	長期	
資金調達	町	民間(SPC)	町
各業務の発注者	町	民間(SPC)	町
種別	概算事業費		
設計費・工事監理費	約3億円	約3億円	
新築工事費	複合公共施設	約23億円	約22億円
	小学校・体育館	約36億円	約34億円
	合計	約59億円	約56億円
外構工事	約8億円	約8億円	
解体工事	約4億円	約4億円	
造成工事	約1億円	約1億円	
合計	約75億円	約72億円	

## 5 管理運営計画

### 複合化を活かした運営方針

#### 1. 施設の相互利用

小学校と図書館・公民館等の複合化を活かすため施設の相互利用を行います。

#### 2. 横断的なサービス提供

各施設が積極的に連携し、利用者それぞれのニーズに対して横断的なサービスが提供できるようになります。

#### 3. 開館時間等の共通化

各施設の複合化を活かして、いつ訪れても賑わいと交流があり、利用者の求めるサービスを提供できるよう、開館時間等や休館日の共通化を目指します。

## 6 今後の進め方

今後の事業スケジュール案は以下のとおりです。令和4年度中の事業者決定、令和8年度中の供用開始を見込みます。

令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年
事業手法を決める段階です 現在、大まかな規模や 基本計画(素案)公表 パブリックコメント 基本計画策定		要求水準書・募集要項 施設に求める性能を定め、 募集する事業者の条件や 契約内容の設定を行う	事業者決定	基本設計・実施設計 建築設計・外構設計 デザインを行う	建設工事 施設の建設工事を行う	供用開始予定

# 藤久保地域拠点施設基本計画（概要版）

## 1 藤久保地域拠点施設基本計画とは

藤久保地域拠点施設整備事業は、藤久保文化行政ゾーンにおいて、藤久保小学校や保健センター、藤久保児童館などの更新に合わせて、順次更新時期を迎える公共施設を一体で整備する事業です。

藤久保地域拠点施設基本計画（以下「基本計画」という）は藤久保地域拠点施設（以下「本施設」という）における、今後の基本設計、実施設計、施工、維持管理、運営などの各業務の基本的な考え方を示すものです。



## 2 基本計画の策定方針

### 1. 地域住民との共創



基本計画では、利用者の意見を積極的に取り入れ、本施設及び本事業を地域住民と共に創ることを重視します。

### 2. 基本理念の具体化～図書館を核とした未来創造拠点



基本理念である「輝く未来創造拠点」を更に具体化し、本施設に導入される各機能が図書館を中心に交わり、相乗効果を生み出しながら、新たなイノベーションや集い、学び、育ちの拠点となることを重視します。



### 3. 情報収集・情報発信の強化



情報発信スペースを目に付きやすい共有部に集約することや、必要な情報に素早くアクセスできるように多彩な情報発信方法に対応するなど情報収集・発信機能の強化を検討します。

### 4. すべての人の居場所づくり～みんなのプラットフォーム



すべての人が安心でき、落ち着ける場所で、様々な活動を行ったり、次のチャレンジに向けた情報収集、活動支援、仲間集めなどを行う「みんなのプラットフォーム（共通基盤）」を目指します。